

清水正の

一里一尺

～自然をたずねて～ ⑬

人里の花、山の花



♪あれまつむしが鳴いている

九月の末ともなると観月橋を夕暮れ時に渡っていると、秋の虫たちがやかましいほど鳴いています。昔だったらただ虫の声とだけしかわかりませんでした。数年前から三回ほど続けて「虫の音を聞く

会」を観月橋の宇治川河原で行いました。虫に詳しいSさんを招いて、鳴く虫の一つ一つ名前を教えて貰いました。耳を澄まして聞いていると色々な虫がいることがわかり楽しくなりました。♪あれ松虫が鳴いている…、「ちんちろりん」と「虫の声」の歌詞そのままに鳴いています。頭の上から大きな声でアオマツムシ（外来種）がやたらとうるさく鳴いています、足下でもよく聞いているとガチャガチャガチャガチャと歌と同じにクツワムシが鳴きます。この辺りまでは自力でわかりましたが、後は教えてもらわないと難しいです。ルルルル低い声で長く鳴くのがカンタン。チンチンチンとカネタタキ。リーリーリーと鳴くのがツズレサセコオロギでコロコロコロ、コロ、コロと鳴くのがエンマコオ

ロギ、他にミツカドコオロギなんというのもしました。一緒にいたKさんがスマホの録音機能を使って上手にレコーディングしていました。Kさんの技術もさることながらスマホ恐るべしといった感じでした。そろそろ虫の音もあきたころ、リーンリーンと美しい声を聞かせてくれたのがスズムシ、かつて父親が家で飼っていたことを思い出しくなりました。それにしても、近所の観月橋の河原で野生のスズムシの声が聞けるなんて思ってもいなかったのが感激でした。おかげで今では橋を渡り

観月橋の河原に咲く
ヒガンバナ

ながら〇〇が鳴きだしたと少しわかるようになりまし。これも河原が広く残っているからこそ、この環境が劣化させられないようにしたいものです。

律儀な花です彼岸花

この宇治川河原にお彼岸近くにになるとヒガンバナが咲きます。今年はいつともより河原のあちこちに咲き、増えているような気がします(主観です)。宇治川から西高瀬川に引かれた宇治川派流にも沢山のヒガンバナが咲いていました。でも昨年とは少し違っていました。普通のヒガンバナの横にはシロバナヒガンバナが並んでいました。今年はこの地域でも同様の景色をよく見かけます。シロバナヒガンバナはヒガンバナとシヨウキズイセンの交雑種といわれ、栽培され

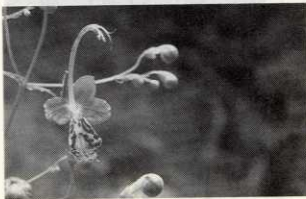
ています。ですから人によつて植えられたか逸出したものだと思われ。紅白並ぶときれいではあります。栽培品の逸出による本来の自然でないものが拡がることに一抹の不安もよぎります。

今年暑かったので少しヒガンバナの咲くのが遅いと言うことをあちこちで聞きました。本当にそうだったのでしょうか?後日に科学的客観的データが示されるのを待ちたいと思います。所でこのヒガンバナは別名や地方名の多いことでも知られています。曼珠沙華、葉みず花みず、死人花、天蓋花、葬式花、雷花、火事花などあげればきりがなく、約一〇〇〇種の呼び名があると言われます。これは救荒植物として使われたり、モグラ除けに植えたり et c、と人に関わりを持ってきた植物だからこ

そなのでしょうか。私はこの花を見ると情念のような物を感じるのですが、今年ばかりは炎熱にしか思えませんでした。

カリガネソウを求めて山歩き

今から一〇年前、京都・滋賀の植物好きの仲間で山歩きをしました。多くは滋賀県でしたが、この時はカリガネソウが見たいというので私の知る京都の自生地に出かけました。カリガネソウとは雁の姿に似るから名付けられたようです。別名にホカケソウと言うものもあります。味方によつて色々に見えるものです



カリガネソウ(京都府絶滅寸前種)



ミヤコミズ(京都府準絶滅危惧種)

木に覆われ、
 けっして明
 るいとは言
 えません。
 少し歩くと
 ミヤコミズ
 (京都府準
 絶滅危惧種

種)があちこちに見られます。イラクサの仲間にはよく似たものが多いが、本種は茎や葉が赤味を帯びているのですぐわかります。やはり秋ですね、タデ科の花が沢山見られます、アキノウナギツカミかと思っ花を見つけました。しかし、茎を触るとさほどの刺は感じません。これではウナギをつかむことは出来ません。よく見ると花の数も極端に少ないです。ナガバノヤノネグサでしょうか? 1cmほどの水色の花が咲いていました。おおかた花の時期が終わったのか、花は花穂の先に残るだけで、下部は実が沢山付いていました。この実が何とも面白く四つボタンが集まっていてそのひとつひとつ

つに剛毛がいっぱい付いています。花や実を目を奪われて草全体を見忘れていました。下部の葉を触ってみるとごわごわして、花のイメージとは違いすぎます。茎も同様にざらざらっと毛が生えています。オニルリソウです。春に見るはヤマルリソウとはずいぶん違うものです。
 夏の終わりから秋にかけて、山地の日陰で少し湿っぽいところならどこでも見ることの出来る花ですが、何とも言えず可愛らしく、小さいながらも目立つ花が有

ね。写真を見れば一目瞭然なのですが、一応文章解説を試みます。上の花弁(上唇)は上が二つに裂けハート型、両横にある花弁は物を抱くように拡がり、下の花弁(下唇)は前に突き出し、他の花弁にはない濃青紫色の斑模様があります。全体鮮やかな青紫色です。花の中心から雄しべと雌しべが上に突き出し、曲がった釣り竿のように弓なりになります。

秋ですね、タデ科の花が沢山見られます、アキノウナギツカミかと思っ花を見つけました。しかし、茎を触るとさほどの刺は感じません。これではウナギをつかむことは出来ません。よく見ると花の数も極端に少ないです。ナガバノヤノネグサでしょうか? 1cmほどの水色の花が咲いていました。おおかた花の時期が終わったのか、花は花穂の先に残るだけで、下部は実が沢山付いていました。この実が何とも面白く四つボタンが集まっていてそのひとつひとつ



オニルリソウの花



オニルリソウの実
 (四分果で刺がある)



ハグロソウ



ヤマリソウの花

ります。そして二枚の花弁が上下に開くという珍しい形で、一目見て名前を聞いたら忘れられない花がここにも沢山咲いていました。ハグロソウという花です。色は紅紫色から薄紅色。名前の由来は葉

が濃い緑色だからだそのうです。この花の分布は関東以西、東京の高尾が北限という話もあります。気軽に見られる私たちは幸運です。秋は本当に青色系の花が多いで

すね。続いてナギナタコウジュです。花穂に沢山の花が付くのがみんな片側に付くのでわかりやすいです。この花の付き方が薙刀の名前になったよう

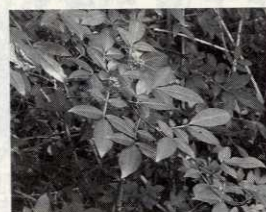
です。この花も紅紫色です。この葉の特徴は良いとは言えない香りです。最初に話をしたカリガネソウもよく似た異臭を放ちます。更に小さく踏みつけてしまうようなウリクサ、トキワハゼも青紫色。

地質と植物の関わり

林道脇にオオバノイノモトソウ(シダ)やコクサギが出てきました。これらは石灰岩や緑色岩を好む植物と聞いています。緑色岩地域などでは他所にみられない植物がみられます。ゆっくり歩き、丹念に



ナギナタコウジュ



フユザンショウの葉
(京都府準絶滅危惧種)

観察します。フユザンショウ(京都府準絶滅危惧種)が見つかりました。名前の通り常緑のサンショウです。食べることも出来ませんが、葉などから柑橘系のよい香りを発します。サンショウの葉より大きいです。サンショウの仲間にはイヌザンショウ、カラスザンショウ、フユザンショウとありますが、常緑はフユザンショウのみです。いずれも香りがあります。矢張りサンショウが一番上品で嫌みがありません。また四種とも刺があるのは同じです。すでに花は



ナンバンハコベの実

終わって実になっていましたが、ナンバンハコベが見つかりました。ナンバンハコベをみるのは久しぶりです。この花の形は名前こそハコベと言いますが、属というグループが違うので他のハコベとはずいぶん違う形をしています。実もまだ白緑色で目立ちませんでしたが。実が鈴なりになったサンカクヅルが見つかりました。この実はヤマブドウのミニユチュア版といった感じで、美味です。まだ未熟果が多かったので採取はしませんでした。もう少しして採取できたら美味しいジャムや果実酒に出来たと思うと残念です。

昔、岐阜で同じブドウの仲間のエビヅルの実を沢山見つけて果実酒に漬けたことを思い出しました。

二年かけて名前がわかった花

林道の奥でお目当てのカリガネ

ソウをあちこちで見つけました。みんなでシャッターを何回も切りました。花に触れる度に発せられる何とも言えぬ臭気が充満して、何でこんな可愛い花なのにこんな匂いするんやと文句仕切りでした。そんな時、林床に見かけない形の葉を見つけてきましたが、花は終わってよくわかりません。何とかわからないかと触っていると、葉からいい香りがしました。対生に付く葉の形と、この匂いをもとに特定しようとしたのですがわかりません。仕方なく来年の花の時期に来ようということにして、その場を



タニジャコウソウ
(京都府絶滅寸前種)

去りました。そして翌年、同じ場所に行きました。見事ピンク色の筒状花が咲いていました。タニジャコウソウでした。何と昨年まで京都では絶滅種でしたが、発見をした人がいて、今では絶滅寸前に指定されていました。いずれにしても大変貴重なものを見るのが出来、同定も出来て感無量でした。山を歩くと色々なことを経験できると共に発見があり、心が洗われるようです。それにしても絶滅種と決めても、どこかで密かに生きているしたたかな草木がいるのですね。